

さわどい 埼玉



▲村は赤カレン族で人口517人。教室は電気設備やトイレも完備し、村人たちのコミュニティの場としても使われることになっています。

▼式典では近隣の少数民族の舞踊も披露されました。



▲原会長からゴースル教育長に記念の盾が渡されました。



▶ゴースル教育長を囲んで教室の前で記念撮影。

メーホンソン県のバン・マイ・サ・ピー校に オープンスタイルの 教室完成

当協会の教育関連施設建設事業は支援事業の重要な柱となっていますが、昨年のメーホンソン県バン・クッド・サムシブ校への寄宿舎建設に続き、今年と同県バン・マイ・サ・ピー校（生徒数九一名）にオープンスタイルの教室を建設しました。二月十二日、その竣工、引渡し式が現地で行われ、それに合わせて第五回友好親善訪問が実施されました。参加したのは原会長夫妻を始めとする二十四名。式典は完成したばかりの教室で行われ、到着した一行は先ず手作りの「お茶菓子」で歓迎を受けました。教室の周りには多くの村人たちも集まり、その中で式典が行われました。

建設してよかったの 感激再び!!

会長 原 宏



▲挨拶する原会長

ちょうど一年前、味わった感激を、今年もまた味わうことができました。昨年のバン・クッド・サムシブ校への寄宿舎二棟の建設に続き、バン・マイ・サ・

ピー校に進めてきたオーブンス・タイルの教室建設が二月に完成し、引渡し式に出席した私たちは昨年同様大歓迎を受けたので

す。完成した新しい教室は、既存の教室とは違い、電気、トイレ設備が整い、教壇が舞台状になっており普通の授業だけでなく、学習発表の場や村人たちの集まりなどにも使われるということでした。この教室が教育と文化の拠りどころとしての役割も果たしていくに違いないと感じました。そして、何よりも村人や子供たちの笑顔を見て、この事業が昨年と同じように成功したことを確信致しました。

今回もまた西條副会長の精力



▲多くの村人が見守る中、式典が行われました。

的な働きかけとランブーン新電元様、タイ新電元様から協力いただきましたことを深く感謝申し上げます。また、本事業に対する会員の皆様のご理解とご協力は大変心強く、私の背中を押していただいていることを感じており、心から感謝を申しあげます。

将来この子供たちが、タイ王国の発展と日タイの友好を担っていくことを信じて、今後もこの事業を進めてまいりたいと思っておりますので、会員の皆様には変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

期待にこたえて いきたい

幹事 吉野寛治



▲壇上で子どもたちと。

今年建設したオーブンス・タイルの教室も、昨年の寄宿舎と同じように、現地の方々が大変喜んでもらうことが出来ました。日本から見ると、あんな教室ぐらいいと思えるような建物ですが、実際訪ねて人々の歓迎に接してみても、本当に喜んでもらったのだと感じることができました。

当友好協会のような団体は様々ありますが、先細りする団体が多い中で、この会の活動は、ますます盛んになっており大変貴重な団体であると思います。

教育施設建設については、先方から、すでに次の希望が出されていますが、それはこの会が「本当にやってくれる」と認知されていることの証であり、その期待にこたえていくために新たな気持ちで活動を進めていきたいと思います。

また今回の親善訪問では、土屋名誉会長と共に北部タイ文化交流祭にも参加しましたが、二重の意味で意義深かったと思えました。

地域の人にとっても いいものが出来た

住谷治男

今回初めて親善訪問に参加し、皆さんとの道中も大変楽しく、いい思い出になりました。

バン・マイ・サ・ピー校がある村は道も悪く、国境に近いせいか護衛の軍隊と一緒にいたり、かなりの辺境という印象でしたが、村の人総出で笑顔で出迎えてくれたのには感激しました。ゴーンル教育長から教室が授業だけでなく村人にも利用されるという話を聞き、日本で言えば公民館のような地域の人にとってもいいものが出て来たのだと非常に嬉しく思いました。

私はニカラガ友好協会の活動もしていますが、教育支援が国の復興に一番役立つと感じています。またこの訪問で参加した北部・タイ日本文化交流祭は、互いの国を知る上で大変良いと思いますので、当友好協会も何らかの形で関わって欲しいと感じました。

温かさと親しみを 感じるタイ王国

捧奈保子



▲生徒に歓迎のコサージュをつけてもらう。

タイ王国へは今回が二度目の訪問でした。初回はバンコクの寺院やアユタヤ遺跡を訪れたぐらいで、敬虔な仏教国という印象でしたが、今回チェンマイからメーホンソンのバン・マイ・サ・ピー校のオーブンス・タイル教室完成式に参加させていただいた事で、私のタイへの思いは一変いたしました。

山岳地域の村の暮しは、日本からは思いもよらない厳しいものと察せられましたがその子ども達の瞳の純粋さに胸を打たれ、はにかんだ笑顔が懐かしげで、もつと滞在したい気持ちになりました。村を挙げて歓迎して下さい、生徒さんのお祝いの踊りは、なんと「お米作り」の光景を踊りにした振りでしたので、踊りに目のない私は嬉しくて、タイとの距離が一気に縮まったのです。

このような草の根外交が大きく実を結び、架け橋となって、新たな出会いをもたらして下さいました事に心から感謝を申し上げます。思いです。「コップン・カー」。



▶プラタート・ドイ・コン・ムー寺
院で供花する。

第二回北部タイ文化交流祭にも参加 土屋名誉会長が来賓として挨拶



▲挨拶する土屋名誉会長

第五回親善訪問団の一行は、二月十二日、チェンマイで行われた第二回北部文化交流祭に参加しました。同祭はチェンマイ日本国総領事館が主催するもので、当会の名誉会長でもある、土屋義彦前埼玉県知事が来賓として招かれ、祝辞を述べました。

会場の市民広場には約二千人が詰めかけ、ステージの上で繰り広げられた両国の武道、ムエタイや剣道、バンブーダンスや阿波踊りなどに見入っていました。また、土屋名誉会長は前日行われた第一回日本語スピーチコンテストにも来賓として出席、祝辞を述べ、若者への期待を語りました。

第二回北部タイ文化交流祭における土屋名誉会長の祝辞(要旨)

スワット・チェンマイ県知事、プルラート・チェンマイ市長並びに御列席の皆様、本日、「北部タイ文化交流祭」にお招きいただき、大変嬉しくまた、光栄に存じております。

北部タイの伝統と産業の中核都市であるチェンマイ市において、第二回目の文化交流祭が市ご当局をはじめ、商工会議所、北部工業評議会など関係者のご尽力によって、このように盛大に開催されますことに対し、心から敬意と感謝を申し上げます。

私事に亘り恐縮ですが、私は政治に関係して、53年間経ちました。この間、県議会議員、国会議員の秘書、参議院議員、日本では三権の長といっておりますが参議院議長、そして埼玉県知事を務めました。一貫して我が国とタイ王国との関係、即ち、両国政府から両国民の間に至る友好・親善関係の増進につとめてまいりました。

思い起こしますと、1997年5月に我が埼玉県に、シリキット王妃陛下お出ましをいただき、拝謁を賜っております。また、1999年1月にチェンマイを訪問した折り、プーピン宮殿に、シリキット王妃陛下を訪問させていただきました。更に、シリトーン王女には、1994年11月「ジャパンIRRIデイ」にご出席の際に、本県に御来県賜わり、また、2005年2月には、チトラダ宮殿において拝謁を賜っております。

私のタイ訪問は、今回で8回目になりますが、訪問するたびにタイ王国が着実な発展を遂げ、益々魅力ある国家になっており、我が国をはじめ世界中の国々から注目を浴びております。再び、チェンマイ市を訪れ、北部タイの発展ぶりを目のあたりにして、改めてタイ国民の力とエネルギーをひしひしと感じたところであります。

我が国とタイ王国は、数世紀に及ぶ交易・交流の歴史を有し、尊敬し合うアジアの友人として、友好を深めて参りました。この伝統的な両国民の友好の絆が今回の文化交流祭を通じて、更に北部地域に広がっていくことを期待しております。

本日、この席に、「埼玉・タイ王国友好親善訪問団」の一行80名が参加しておりますが、昨日、原宏会長ご夫妻の皆さんがメーホンソン県に参りまして、タイ王国の次の世代を担う子供たちのために、オープンスタイルの教室を寄贈されました。

これからも私たちは、タイと日本、日本とタイとの友好・親善交流を更に進め、世界の平和のために努力をして参ることをお約束いたしまして、お祝いのご挨拶といたします。

北部タイ学生日本語スピーチコンテスト における土屋名誉会長の祝辞(要旨)

ただ今、ご紹介をいただきました土屋義彦でございます。

本日は、第一回北部タイ学生日本語スピーチコンテストが多く数の学生が参加する中で、盛大に開催されましたことを、まづもってお祝い申し上げます。

本日のスピーチコンテストと明日の文化交流祭へ参加するため、埼玉タイ王国友好協会のメンバー、八十名とともに、昨夜チェンマイに参りました。

私は、これまで国会議員を二七年間、埼玉県知事を十一年間務めました。在任中、多くのタイ学生が埼玉県へ来訪され、その折に親しく懇談をさせていただきました。そこで感じましたことは、タイの若い皆さんは日本の歴史や文化を熱心に勉強し、その上、日本語を上手に話しており、これからのタイ王国を背負って立つ若い学生の目がキラキラと輝いていたことが、実に印象的で今も脳裏に残っております。

本日のコンテストに出場されました皆さんのスピーチは、日本語能力が非常に高く、表現も豊かで、大変優秀な方ばかりであったと伺っており、皆さんが日ごろから、一生懸命に日本語の勉強をされている成果であると思えます。

これからも、日本語の学習と研鑽を積み、日本とタイ王国の友好に寄与される立派な人にな



▲スピーチコンテスト入賞者と共に。

なっていたことを、大いに期待しております。

今後の国際情勢の中で、アジアとりわけタイ王国は、日本にとりましても大変重要な国であります。これから将来のタイ王国を支えていくのが皆さん方になります。

私は、これからも尊敬してやまない篠原勝弘総領事さん、アジアみらいネットワークの江藤賢一理事長さんとともに、一人でも多くのタイの学生が日本について学んでもらえるよう、そして留学が出来ますように微力ながら努力を続けてまいります。最後になりましたが、今回初めて日本語スピーチコンテストの開催に当たり、ご尽力いただきました主権者や後援者の皆さんに心から敬意を表しますとともに、このコンテストが、日本とタイ王国の友好の礎となつて、ずっと続けられていくことを念願し祝辞といたします。

タイにアクセス

会員 VOICE

これからも子どもの支援を続けていきたい

〈寄稿〉 さいたま市 小山広吉さん



“幸せな子どもと、そうでない子どもがいます 同じ星に生まれたのに”。十一年前、退職してだらだらと過ごしていた私は新聞のこの文字に釘付けになりました。以来十年、タイ東北部スリン県のカンボジアの国境に近い村の支援プロジェクトに参加し、今2人目のチャイルドスポンサーになっています。

この2月、友好協会の親善訪問に参加した際、帰国を延ばし、当会会員の福原さんとノンカイ県のノンセン村を訪ね、40名の子どもたちと交流してきました。場所は、ノンカイからメコン河に沿って約50キロ西に入った所です。

この日、私は日本文化を紹介しようと、カードを用意して行き、日本の季節、相撲、すし、さしみ、てんぷら、富士山、雪などの説明をしました。また福原さんがオカリナを吹き、同行してくださったアジア子供教育センターの杉

浦直樹氏と私が日本の唱歌を歌いました。その後学用品や古着などを子供たち一人一人に手渡しましたが、素直でやさしい目の子供たちに、すくすくと育てて欲しいと心底思いました。

イサーンと呼ばれるタイ東北部の教育環境は大変悪く、バンコクの1、2年生とこの地域の小学5、6年生の学力がほぼ同じだと言われています。子どもの教育を重視し、この地域の産業の振興を期待したい、そのために私は出来る限り子供たちの支援を続けていきたいと考えています。



▲日本の唱歌を歌う。後方が福原さん

子供たちに見送られて山を下るとメコン川がゆったりと流れていました。何かしら未知の期待感を抱かせるメコン、私の大好きなこのメコンの畔にこの次も立ちたいと思いました。

タイ大使館庭で水かけまつり

4月15日はタイの元旦。僧侶に食べ物やその他のお供え物を捧げたり、魚や鳥を放つといった功德を積む儀式が行われます。年長者は年少者から尊敬、懺悔の意を込めて聖水を注がれ、年少者に対しては祝福を与え、それまで犯した過ちを許します。

この日、新年を祝う伝統行事ソクラーン(水かけ祭り)がタイ大使館公邸の庭で行われ、関係者を始め、付近の住民や子供たちなどが招かれました。参加者は公邸のテラスに置かれた仏像や、年長者の手に水をかけていました。



▲仏像に水をかける吉田事務局長



▲フルーツカービングの実演も行われ目を引いていました

庭のあちこちにおかれたテントでは、タイの飲み物や料理が振舞われ、テラスではタイの古典舞踊も披露されました。またフルーツカービングの実演もあり、その精巧さに見入る姿が見られました。



▲ゴシックスタイルの美しい公邸の庭で大使の話聞く参加者たち

タイ大使公邸について

中世の城を思わせるこの公邸は第二次世界大戦前の昭和11年、実業家として名高かった「濱口邸」として建てられました。濱口氏は芸術、骨董品に造詣が深く、優美なインテリアや上質な輸入品を配し、濱口邸は古典的な建築様式と芸術的な装飾を兼ね備えたものとなりました。

昭和18年、当時のタイ王国大使が、縁あってこの邸宅を100万円で購入。以来何度か修復されたものの、その独創性と優雅さは損なわれることなく残されてきました。

タイ・フェスティバル2006

5月13日(土)・14日(日)

am10:00~pm8:00
代々木公園イベント広場

Ⓧタイ王国大使館

<http://www.thaiembassy.jp>

無料

タイ事務局連絡先

バンコクのUIエレクトロニクス
タイランド内

☎662-712-7290

編集後記

●学校が物理的にも精神的にも村の中心にある…、かつての日本もそうでした。将来バン・マイ・サ・ピー校も不審者の侵入を警戒する時が来るのだろうか。

(N)

●バンコクの地下鉄やスカイトレインの「切符」がカードやコインで、再利用されているのに感心しました。

(O)